



暮らしの中の基本的人権

ふと気がつくと、我が子のしぐさや話し方が自分とそっくり……そんな経験はありませんか。私たちにそのつもりがなくても、子どもたちは大人の会話や姿からたくさんことを学び、知らず知らずのうちに身につけています。

私たちは、実にさまざまな基準で人を見ています。時として、人種、民族、職業、学歴、出身地など、人格とは関係のない基準で、「〇〇だから、きっと△△だ」と決めつけた見方をし、その人の人間性や能力などを判断してしまうことがあります。

人間を外的条件で決めつけたり、表面的あるいは一面的に判断したりすることがその人を傷つけ、時には結婚や就職、進学、居住などに関わる重大な人権侵害につながってしまう場合があります。

子どもたちの人権尊重の精神を育むためには、まず私たち大人が自分の人権を大切にし、同様に他人の人権も大切にしている姿を、日常生活を通じて子どもたちに示していくことが大切です。



さまざまな人権課題

人権は、誰にとっても身近で大切なもの、違いを認め合う心によって守られるものだと考えられます。子どもたちには「命を大切にすること」「みんなと仲良くすること」と言う伝わりやすいでしょう。

人権の大切さは、誰でも心で感じることでできるものです。しかし、現実の社会では、いじめや虐待等をはじめ、さまざまな人権課題があります。インターネット上での誹謗中傷や差別を助長するような情報の発信は、深刻な被害を招きかねないものです。また、マイノリティに対する偏見・差別の解消も重要な課題です。

国（法務省）では、毎年度、以下のような啓発活動強調事項を掲げ、人権啓発活動を実施しています。

- | | |
|----------------------------------|---------------------------------|
| ① 女性の人権を守ろう | ⑩ 刑を終えて出所した人やその家族に対する偏見や差別をなくそう |
| ② こどもの人権を守ろう | ⑪ 犯罪被害者やその家族の人権に配慮しよう |
| ③ 高齢者の人権を守ろう | ⑫ インターネット上の人権侵害をなくそう |
| ④ 障害を理由とする偏見や差別をなくそう | ⑬ 北朝鮮当局による人権侵害問題に対する認識を深めよう |
| ⑤ 部落差別（同和問題）を解消しよう | ⑭ ホームレスに対する偏見や差別をなくそう |
| ⑥ アイヌの人々に対する偏見や差別をなくそう | ⑮ 性的マイノリティに関する偏見や差別をなくそう |
| ⑦ 外国人の人権を尊重しよう | ⑯ 人身取引をなくそう |
| ⑧ 感染症に関連する偏見や差別をなくそう | ⑰ 震災等の災害に起因する偏見や差別をなくそう |
| ⑨ ハンセン病患者・元患者やその家族に対する偏見や差別をなくそう | |

それぞれの人権課題についての正しい知識・新しい知識を持つことは、私たち一人ひとりにできる取組です。

広島市では、この学習資料のほかにも、人権啓発パンフレットや広島市公式ホームページにおいて、近年の人権課題についての説明や相談窓口を案内しています。

人権啓発パンフレット「みんな大事なひとり」

<https://www.city.hiroshima.lg.jp/soshiki/50/133386.html>



また、ヒューマンフェスタひろしまや人権啓発パネル展などの啓発活動、公民館での人権教育講座なども実施しています。ぜひ、こうした資料や学習機会もご活用ください。

名 称	一人ひとりを大切に ～ 人権尊重社会の実現をめざして ～			登録番号	広 X 5 - 2 0 2 3 - 3 7 5
発 行 元	広島市・広島市教育委員会	主 管 課	広島市市民局人権啓発部人権啓発課	広島市中区国泰寺町一丁目6番34号 TEL 504-2165	
発行年月	令和6年（2024年）3月	印刷会社	鯉城印刷株式会社		

令和6年度版

新1年生の保護者のみなさまへ

一人ひとりを大切に ～ 人権尊重社会の実現をめざして ～

は じ め に

人権とは、「全ての人々が生命と自由を確保し、それぞれの幸福を追求する権利」あるいは「人間が人間らしく生きる権利で、生まれながらに持つ権利」です。

昭和23年（1948年）12月10日、二度の世界大戦を経験した各国が、戦争は人権を奪う最大の罪悪であり、平和と人権は分けて考えることはできないという反省から、国連総会において「世界人権宣言」を採択しました。現在では、「21世紀は人権の世紀」と呼ばれています。

日本では、日本国憲法において「基本的人権の尊重」が「国民主権」「平和主義」とともに三原則の一つに掲げられています。

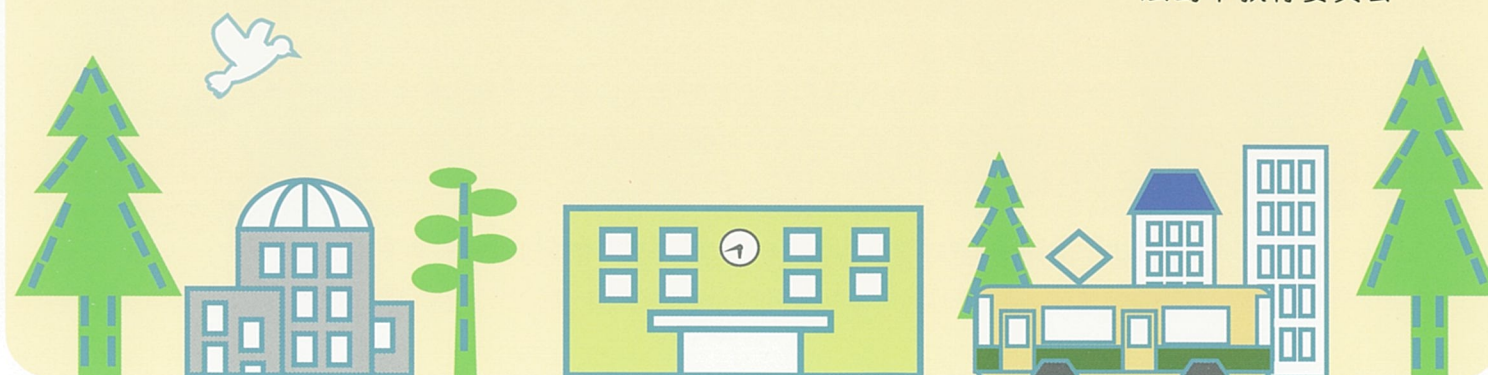
また、すべての人々の人権が尊重される平和で豊かな社会を実現するために、一人ひとりが人権について理解を深めることが大切であるという考えから、「人権教育及び人権啓発の推進に関する法律」（平成12年12月）が作られ、「人権教育・啓発に関する基本計画」（平成14年3月）がまとめられました。

広島市においては、“**全ての人が性別、年齢、障害の有無、人種、性的指向・性自認などに関わりなく、一人の人間としてその個性と能力を十分に発揮できる社会**”をめざし、学校教育や社会教育などを通じて、さまざまな人権教育・啓発活動を行っています。

この冊子では、「自分の大切さとともに他の人の大切さを認めること」ができるようになるために必要なコミュニケーションの技法や、最近のさまざまな人権課題について説明しています。

「一人ひとりを大切にする」、「一人ひとりが大切にされる」住みよい社会の実現に向け、その一助となれば幸いです。

広 島 市
広島市教育委員会





見直してみませんか 毎日のコミュニケーション



日々のなにげない会話にひと工夫することで、思いやりのある言葉のキャッチボールができます。そんなに難しいことはありません。できることから始めてみませんか。

1 ワクワクするようなあいさつを

「おはよう」「いってらっしゃい」「おかえりなさい」「ありがとう」…。
私たちは、毎日たくさんのあいさつを交わしています。そのときに、ひと工夫。



- ◎ 顔を見てあいさつしてみましょう
- ◎ 笑顔であいさつしてみましょう
- ◎ 名前を呼びながら、あいさつしてみましょう 「〇〇さん、おはよう（おかえり）」
- ◎ 自分から声をかけてみましょう

特に「ありがとう」は、感謝の気持ちを伝える言葉です。毎日たくさん使ってみましょう。自分から声をかけることで、あいさつの輪が広がっていきます。発信者は「あなた自身」です。

2 「～!」のつく言葉をたくさん使おう

- ◎ 「さすが!」「信じてるよ!」「すばらしい!」「そうだね!」「うれしい!」…



自分の素直な気持ちを言葉にして伝えてみましょう。感情的になるのではなく、気持ちを言葉にすることです。「すごいね!」などのプラスの言葉をたくさん使ってみましょう。

3 上手に伝えるコツ ～「I(アイ)メッセージ」～

(状況)

夕方、遊びに行っていた子どもが、いつもより1時間遅れて帰宅。それまで子どもから遅くなるという連絡は何もなく、あなたはイライラしながら子どもの帰りを待っていたのでした。そこであなたは言います。

あなたなら次のA～Cのどのタイプを言いますか？

- A おかえり。遅かったね…。
- B 今、何時だと思ってるの。こんな時間まで何をしていたの。連絡もしないで。まったく、何を考えてるの。
- C わあ～、おかえり。【私は、】帰りが遅いから何かあったのではないかと心配していたよ。遅くなるときは、連絡することを忘れないでね。

いずれの場合でも、子どもの帰りが遅かったため「心配」でたまらず、子どもの顔を見た瞬間には「ホッとした」はずです。

- ◎ <A>は、言いたいことがあるのに言えず、心配していた気持ちなどが伝わりません。
- ◎ は、「怒り」の気持ちが前面に出ているため、子どもは反発心を持ち、素直に聞くことができなくなってしまいます。
- ◎ <C>は、「ホッとした」という気持ちをまず伝えていきます。「私」を主語にして話すことで、相手の怒りをかき立てたり挑発したりすることなく、自分の言いたいことが相手に伝わりやすくなっています。



このように、「私」を主語にしたやりとりを「I(アイ)メッセージ」といいます。



話し手が気持ちよく話をするか、途中で話をしたくなくなるかは、聞き手の「きき方」にかかっています。聴き上手は、お互いの心を通わせる潤滑油になります。



1 あいづちをしっかりと打ちながら聴く

「あいづち」は、話し手の意欲を高める一番のポイントになります。
話を聴きながら、「そうなんだ」「そうだね」などの言葉をはさんだり、<うんうん>とうなずいたりすることで、話し手は自分の話を聴いてもらえているという安心感をもつことができます。



2 相手の言葉を受け止める

相手の話を聴くときには、まずは「相手の話を途中でさえぎらず、最後まで聴く」「批判・判断せずに聴く」ことが大切で、さらに、相手の言った言葉をそのまま繰り返して言うことで、よりうち解けて話ができる関係を作ることができます。

【A】親と子の会話

- 子 話があるんだけど。
- 親 何かな。
- 子 今日、習い事を休みたいんだけど。
- 親 何を言ってるんだ、この大事なときに。たるんでるぞ。
- 子 でも…。
- 親 いい訳なんて聞きたくない。
- 子 …。

【B】親と子の会話(相手の言葉を繰り返す例)

- 子 話があるんだけど。
- 親 何かな。
- 子 今日、習い事を休みたいんだけど。
- 親 休みたいのか。
- 子 うん、このところ運動会の練習を頑張ってたから。
- 親 そうか。運動会の練習を頑張ってたんだね!いま習い事も運動会の練習も大事なときだから、どちらも頑張ってほしいけど、そんなにしんどいかい?
- 子 うん…。次の習い事から、また頑張るから。
- 親 わかった。今日は休もうね。

- ◎ <A>は、極端な例ですが、子どもは「いい訳なんて聞きたくない」と話を途中でさえぎられ、萎縮してしまってそれ以上話せなくなります。
- ◎ は、子どもの言葉を繰り返して言うことで、子どもは受け入れられているという安心感を抱き、自分の気持ちや考えを話すことができます。そして、子ども自身がどうしたらいいのかを考え、自分から行動を変えていくのです。

みなさんが、子どもや家族と築いていきたいコミュニケーションや人間関係とはどのようなイメージでしょうか？ 例えば「ありがとうがいっぱいの家庭」「子どもがたくさん話をしてくれる家庭」「思いやりのある言葉のキャッチボールができる家庭」など、具体的にイメージしながら、自分自身ができることから少しずつ実行してみてください。

【参考図書】

- *「教師のためのアサーション」 園田雅代他 金子書房
- *「自己カウンセリングとアサーションのすすめ」 平木典子 金子書房

